

# 連載講座

## クローズアップ“火災” (12)

—消防統計からのアプローチ—

### 火遊び火災の話

財団法人 消防科学総合センター  
主任研究員 日野 宗門

本連載の第8回～第11回では、件数（ただし、建物火災件数）の多い順に、コンロ火災、タバコ火災、ストーブ火災の特徴をみてきた。「放火」、「放火の疑い」は第1回、2回で既述。）

上記の火災原因に次いで多いのは、昭和62年では「風呂釜」であるが、昭和63年では「火遊び」（「放火の疑い」をも上回る）となる（図1）。

全火災件数でみると、「火遊び」による火災（以下、「火遊び火災」という。）は、昭和63年では、全火災の7.4%を占め、第5位を占めている（図2）。

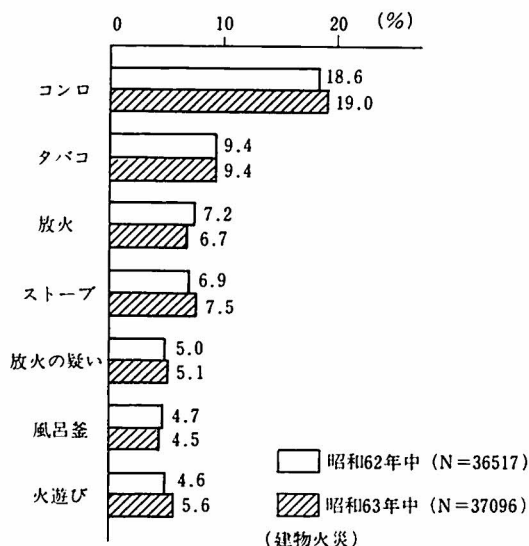


図1 建物火災の主な火災原因の比率

そこで、本号では、「風呂釜火災」はひとまず置いて、火遊び火災の実態に迫ってみよう。

#### 1. 火遊び火災の大部分は、「建物火災」と「その他の火災」である

火遊び火災を火災種別にみると、「建物火災」と「その他の火災」が圧倒的に多く、両者で9割弱を占めており、全火災の「建物火災」比率が6割以上を占める点とは対照的である（図3）。

「その他の火災」が大部分、屋外での火災であることから、火遊び火災が屋外でも多いことが推測できる。

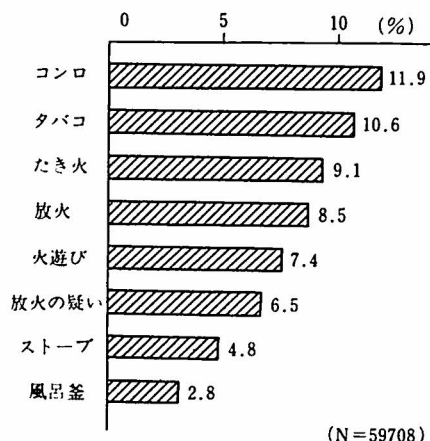


図2 全火災の主な火災原因の比率  
(昭和63年中)

## 2. 火遊び火災は、「初冬～春」、「土・日曜日」、「14時～18時」に多い

火遊びによる「建物火災」および火遊びによる「その他の火災」のいずれも、初冬～春に多く、夏期に少ない傾向がある。この傾向は特に、火遊びによる「その他の火災」で顕著である（図4）。

ちなみに、火遊びによる「その他の火災」の初冬～春（12月～4月）と夏期（6月～9月）の着火物をみると、初冬～春期の着火物として「枯草」が2/3を占めているのに対し、夏期では、これらの着火物の比率は1/3強にとどまっている。このことから、火遊びによる「その他の火災」が初冬～春期に多い理由の一つは、この時期の枯草の多さにあるといえる（図5）。

火遊び火災の発生状況を曜日別にみると、週末でやや多くなっており、特に、「その他の火災」は日曜日に多くなっている（図6）。

また、出火時間帯は、「建物火災」、「その他の火災」のいずれも午後が多く、16～17時にピークがみられる（図7）。

このような傾向を示すのは、この時間帯が火遊び火災の主な原因者である幼児や小学生の放課後にあたるためと考えられる。

ところで、図8をみる限り、火遊び火災の発生状況は天気によって左右されやすいようである。

ただし図8の結果だけでは、天気が悪い日は、「家の中で火遊びするから建物火災が多い」のか、「雨等で着火物に火が着きにくい」ため、林野火災やその他の火災が少ない（その結果、相対的に建物火災の比率が大きくなる。）のかは判断できない。恐らく後者の要因の方が強いであろうと考えられるが、断定

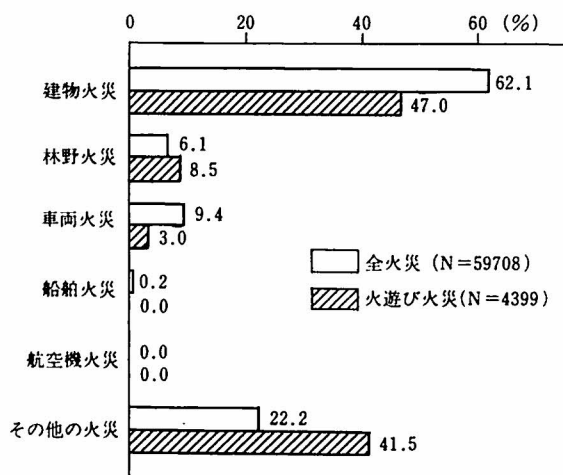


図3 火災種別火災件数比率  
(昭和63年中)

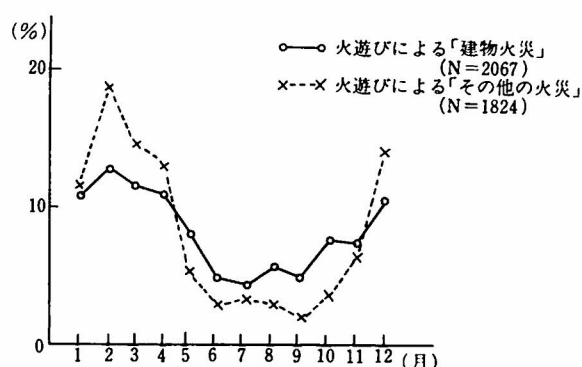


図4 火遊び火災の月別火災件数比率  
(昭和63年中)

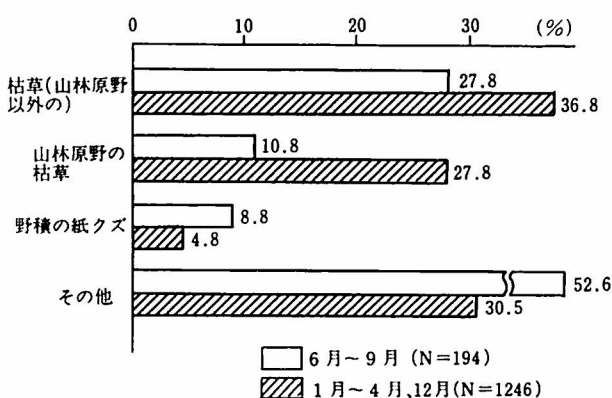


図5 火遊びによる「その他の火災」の時期別  
着火物別比率 (昭和63年中)

はできない。

3. 火遊び火災の火源は「ライター、マッチ」、  
着火物は「紙クズ、袋・紙製品」(建物火災)、  
「枯草」(その他の火災)が多い

火遊び火災の火源は、「建物火災」、「その  
他の火災」のいずれも「ライター」、「マッチ」  
が6割強～8割弱を占めている(図9)。

また、着火物は、「建物火災」では「室内  
の紙クズ」、「袋・紙製品」の両者で半数近く  
を占めている。同じく、「その他の火災」で  
は「枯草」が6割弱を占めている(図10, 11)。

4. 火遊び火災では、「居室、一般倉庫」(建  
物火災)、「空地」(その他の火災)からの  
出火が多い

火遊びによる「建物火災」は、「居室」及  
び「一般倉庫」からの出火が半分以上を占め  
る(図12)。

また、同じく図12からは、子供の遊び場と  
なりやすい建物からの出火が多いことが読み  
とれる。

火遊びによる「その他の火災」では、「空地」、  
「敷地内」、「河川敷」等からの出火が多い(図  
13)。これらの管理責任者においては冬期に  
入る前に、「枯草」を刈りとる等の処置が望  
まれるところである。

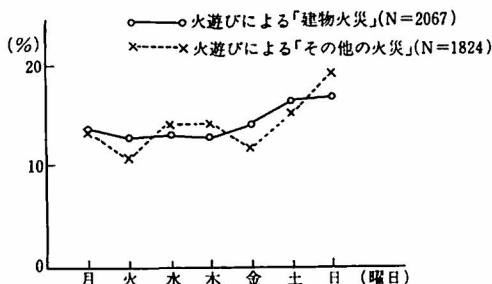


図6 火遊び火災の曜日別火災件数比率  
(昭和63年中)

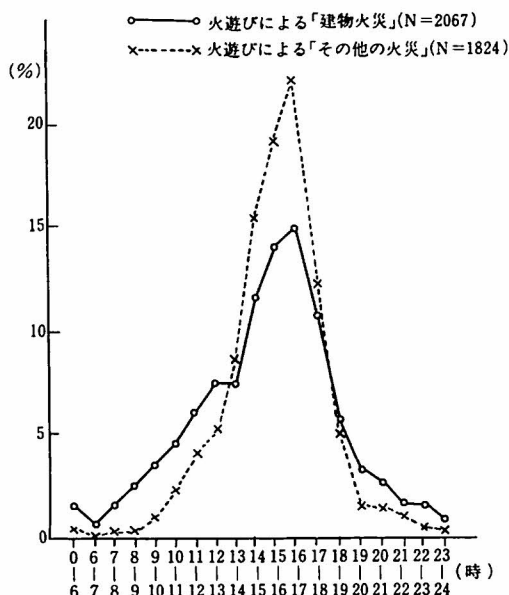


図7 火遊び火災の時間帯別火災件数比率  
(昭和63年中)

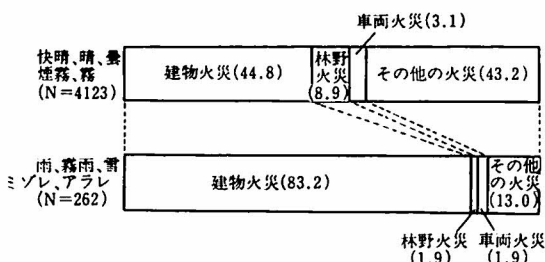


図8 火遊び火災の天候別・火災種別発生比率  
(昭和63年中)

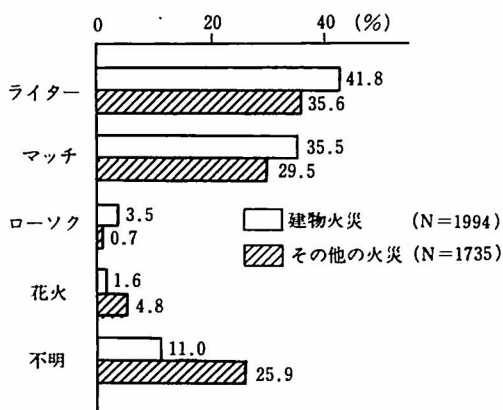


図9 火遊び火災の主な出火源の比率  
(昭和63年中)

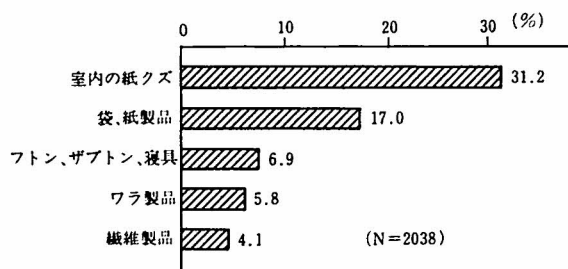


図10 火遊びによる「建物火災」の着火物別比率(上位5位) (昭和63年中)

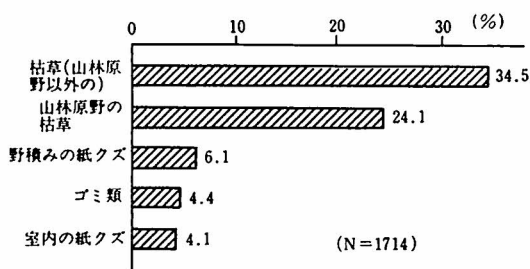


図11 火遊びによる「その他の火災」の着火物別比率(上位5位) (昭和63年中)

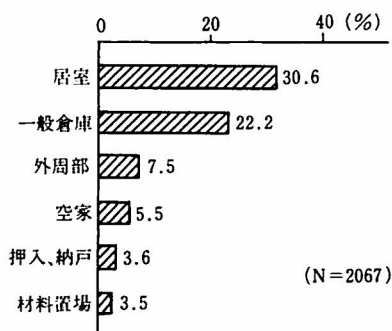


図12 火遊びによる「建物火災」の出火箇所別比率(上位6位) (昭和63年中)

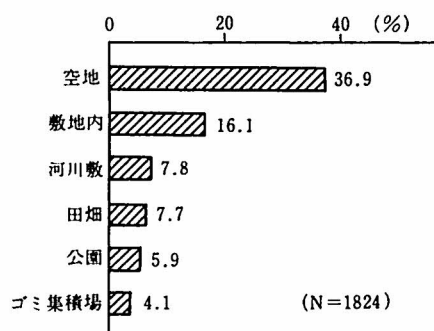


図13 火遊びによる「その他火災」の出火箇所別比率(上位6位) (昭和63年中)

# 読者のお便りから

本連載講座に対しましては、これまでも多くの方々からご意見、ご要望、お問い合わせが寄せられていますが、今回はこの欄を借りて読者のご意見を紹介させていただきます。

ご紹介させていただくのは、1989年秋号(No.18)の本連載の第9回「コンロ火災の話(その2)」に対して寄せられた兵庫県城崎町消防本部予防係の岸本喜朗氏のご意見です。

「コンロ火災の話」(その2)では、コンロ火災で負傷者が多いことの理由として、「家人が消火に従事する率が高いため」とされて

います。確かに、コンロ火災の発見・初期消火を主婦が行なうことが多く、その場合安全な消火が出来ないことから負傷者が多いようです。

コンロ火災の負傷者は、てんぷら油火災の増加に伴い比例増加しているようです。その原因は、てんぷら油火災に限って消火方法を誤ることにあると思います。

昭和62年に管内の主婦を対象に行なったてんぷら油火災に関するアンケートの結果に次のものがあります。

問い あなたのてんぷら油火災消火方法は？

回答 (1) 「野菜などを入れる」 50%

(2) 「座布団などをかぶせる」 25%

- (3) 「消火フラワーを使用する」 10%
- (4) 「その他」 3%
- (5) 「消火器を使用する」 2%
- (6) 「わからない」 10%

この回答を見ますと、次のような消火時の事故が考えられることになります。

- (1) 野菜など水分を含んだものを投入し、爆発的燃焼を引き起こし、火炎にあおられて負傷する。
- (2) 座布団や毛布などをあわててかぶせるため鍋を転倒させ、飛散した油で負傷する。
- (3) あわてて鍋を屋外に出そうとして火炎により負傷する。

(同様のアンケートを他の火災について行なうと、「水をかける」「消火器」「衣類などでたたき消す」などの回答しかなく、てんぷら油火災は特殊であるという意識からか回答のちがいが見られます。)

消火方法が限定される油火災故に、まちがった知識、無知、先入観から誤った消火方

法を取ってしまうのではないのでしょうか。また、鍋やストーブといった可動式の物からの出火では、そのものの自体を屋外に運び出そうとすることが負傷の原因となっているようです。

私は、コロン火災の減少という点もありますが、この種の火災における負傷者の減少も重要な課題であると考えております。そのために次のことをまず徹底広報すべきとしております。

- (1) 油火災の性状等の知識普及（安全な消火方法）
- (2) 消火器の普及と意識の向上
- (3) 消火布、濡れシート等による消火技術の徹底した訓練

中でも(2)の消火器につきましては、コンロ火災の最大の原因である「不在」を考え、最近よく聞く自動消火器（強化液）を特にすすめています。簡易スプリンクラー的にとらえ、住民が自発的に設置するケースもあり注目しております。

